

家庭習慣の教えを論ず

福沢諭吉

青空文庫

人間の腹より生まれ出でたるものは、犬にもあらずまた豕ぶたにもあらず、取りも直さず人間なり。いやしくも人間と名の附く動物なれば、犬豕等の畜類とは自おのずから区別なかるべからず。世人が毎度いう通りに、まさしく人は万物の靈にして、生まれ落ちし始めより、種類も違い、階級にも斯かくまで区別のあることなれば、その仕事にもまた区別なかるべからず。人に恵まれたる物を食らいて腹を太くし、あるいは駆けまわり、あるいは噛かみ合いて疲るれば乃すなわち眠る。これ犬豕が世を渡るの有様にして、いかにも簡易なりというべし。されども人間が世に居て務むべきの仕事は、斯かく簡易なるものにあらず、随分数多くして入り込みたるものなり。

大略これを區別すれば、第一に一身を大切に於て健康を保つこと。第二に活計の道、渡世の法を求めて衣食住に不自由なく生涯を安全に送ること。第三に子供を養育して一人前の男女となし、二代目の世の中にては、その子の父母となるに差さ支しなきように仕込むことなり。第四に人々相集まりて一國一社会を成し、互いに公利を謀はかり共益を起こし、力の及ぶだけを尽してその社会の安全幸福を求むること。この四ヶ条の仕事をよくして十分に快樂を覚ゆるは論を俟またずといえども、今また別に求むべきの快樂あり。その快樂とは何ぞや。月見なり、花見なり、音楽舞蹈なり、そのほか総て世の中の妨げとならざる娯たのしみ事は、いづれも皆心身の活力を引立つるために甚だ緊要のものなれば、仕事の暇いとまあら

ば折を以て求むべきことなり。これを第五の仕事とすべし。

右の五ヶ条は、いやしくも人間と名の附く動物にして社会の一部分を務むるものは、必ずともに行うべき仕事なり。この仕事をさえ充分に成し得れば、人間社会の一人たるに恥ずることなかるべし。然りといえども今の文明の有様にては、充分を希望するはとて六ヶしきことなれば、必ずしも充分にあらずとも、なるべきだけ充分に近づくことの出来るよう、せいぜい精々注意せざるべからず。余輩が毎につね勧むる所の教育とは、即ちこの有様に近づき得るの力を強くするの道にほかならざるなり。

故に一口に教育と呼びな做せども、その領分はなかなか広きものにて、ただに読み書きを教うるのみを以て教育とは申し難し。読

み書きの如きはただ教育の一部分なるのみ。実に教育の箇条は、前号にも述べたる如く極めて多端なりといえども、早くいえば、人々が天然自然に稟^うけ得たる能力を発達して、人間急務の仕事を仕^し遂^とげ得るの力を強くすることなり。その天^{てん}稟^{びん}の能力なるものは、あたかも土の中に埋れる種の如く、早^い晩^か萌芽^もを出す^{いだ}の性質は天然自然に備^いえたるものなり。されども能^よくその萌芽^もを出して立派に生長すると否^{しか}らざるとは、単に手入れの行届くと行届かざるとに依^よるなり。即ち培養^{ていれ}の厚薄良否に依るといふも可なり。いわゆる教育なるものは則^{すなわ}ち能力の培養にして、人始めて生まれ落ちしより成人に及ぶまで、父母の言行によつて養われ、あるいは学校の教授によつて導かれ、あるいは世の有様^{いざな}に誘われ、世俗の空

氣に暴さらされて、それ相應に萌芽を出し生長を遂とぐるものなれば、
 その出来不出来は、その培養たる教育の良否によつて定まること
 なり。就なかんずく中幼少の時、見習い聞き覚えて習慣となりたること
 は、深く染み込めて容易に矯ため直しの出来ぬものなり。さればこ
 そ習慣は第二の天性を成すといひ、幼稚の性質は百歳までともい
 う程のことにて、真まことに人の賢けん不肖ふしょうは、父母家庭の教育次第なり
 というも可なり。家庭の教育、謹つつしむべきなり。

然しかるに今、この大切なる仕事を引受けたる世間の父母を見るに、
 かつて子を家庭に教育するの道を稽古したることなく、甚だしき
 は家庭教育の大切なることだに知らずして甚だ容易なるものと心
 得、毎つねに心の向き次第、その時その時の出任せにて所置しよちするもの

多きが如し。今その最も普通なる実例の一、二を示さんに、子供が誤つて溝中みぞなかに落込み着物を汚すことあれば、厳しくその子を叱ることあり。もしまた誤つて柱に行き当り額ひたいに瘤こぶを出して泣き出すことあれば、これを叱らずしてかえつて過ちを柱に歸し、柱を打ち叩きて子供を慰むることあり。さてこの二つの場合において、子供の方にてはいずれも自身の誤りなれば頓とんと區別はなきことなれども、一には叱られ一には慰めらるるとはそもそも何故なにゆえなるか。畢ひつきよう 竟親の方にては格別深き考えもあらず、ただ一時の情意に発したるものなるべし。その第一例なる衣裳を汚したる方は、何ほどか母に面倒を掛けあるいは損害を蒙こうむらしむることあれば、憤怒ふんぬの情に堪えかねて前後の考えもなく覚えす知らず叱り

附くることならん。また第二の方は、さまで面倒もなく損害もなき故、何となく子供の痛みを憐れみ、かつは泣声やかまの喧いしきを厭いとい、これを避けんがために過ちを柱に歸して暫しばらくこれを慰むることならんといえども、父母のすることなすことは、善きも悪あしきも皆一々子供の手本となり教えとなることなれば、縦たとい令父母には深き考えなきにもせよ、よくよくその係り合いを尋ぬれば、一は怒りの情に堪えきらざる手本になり、一は誤りを他に被かぶせて自ら省みず、むやみに復讐の気合いを教え込むものにて、至極有り難からぬ教育なり。そのほか叱るべきことあるも父母の氣向次第にて、機嫌の善き時なればかえつてこれを賞ほめ、機嫌悪あしければあるいはこれを叱る等の不都合は甚すくだ尠すくなからず。

全体これらの父母たるものが、教育といえばただ字を教え、読
 み書きの稽古けいこをのみするものと心得、その事をさえ程ほど能く教え込
 むときは立派な人間になるべしと思ひ、自身の挙動ふるまいにはさほど
 心を用いざるもの如し。されども少しく考え見るときは、身の
 挙動にて教うることは書を読み教うるよりも深く心の底に染み
 込むものにて、かえつて大切なる教育なれば、自身の所業は決し
 て等閑なおよざりにすべからず。つまる処、子供とて何時いつまでも子供にあ
 らず、直じきに一人前の男女となり、世の中の一部分を働くべき人間
 となるべきものなれば、事の大小輕重を問わず、人間必要の習慣
 を成すに益えきあるか妨げあるかを考え合わせて、然る後に手を下す
 べきのみ。然らずんば、人間の腹より出でたる犬豕けんしを生ずること

必ひつじよう定じようなり。かか斯かるばけもの化ばけもの物ものは街道に連れ出して見世物となすには至極面白かるべけれども、世の中のためには甚だ困りものなり。

青空文庫情報

底本：「福沢諭吉家族論集」岩波文庫、岩波書店

1999（平成11）年6月16日第1刷発行

底本の親本：「福澤諭吉全集 第19巻」岩波書店

1962（昭和37）年11月5日初版発行

1971（昭和46）年4月13日再版発行

初出：「家庭叢談 第九号」

1876（明治9）年10月発行

入力：田中哲郎

校正：…（ひきき）

2009年1月13日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

家庭習慣の教えを論ず

福沢諭吉

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>